

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 014	提案機関名 農業技術センター普及指導部
<b>要望問題名</b> 施設キュウリ栽培における湿度管理の違いによる収量および品質への影響	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 本県の施設キュウリ栽培においては、午前中は側枝の発生と発育を促すために湿度を高め、午後は病害抑制のために湿度を低減させる管理が一般的である。しかし、他県においては、午前の湿度を低めにし、午後の湿度を高めることによって薬剤散布回数を減らし、かつ、収量が増加している事例がある。また、県内でも、一部に収穫作業を行う午前中は、湿度をやや低く保ち、午後に蒸し込みを行っている事例があるが、湿度管理の違いによる収量および品質について比較を行ったデータはない。そこで、湿度管理の違いによる収量および品質への影響や病害の発生状況、労力、経費等について比較検討をお願いしたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	生産技術部野菜作物研究課
<b>対応区分</b>	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合)		
<b>対応の内容等</b>	湿度管理はキュウリの生育、病虫害発生、光合成能、農家の作業性などの点から重要な課題です。平成26年度に抑制キュウリの換気温度を変えて収量や品質への影響について調査しました。また、千葉県農林総合研究センター特別報告(2012)には、午前中の換気と午後の昇温により、作業者の負担軽減と病虫害抑制効果、収量、品質への影響についての調査結果があります。これらの知見を参考にさせていただくとともに、現地試験等に協力することで課題解決を図ります。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
<b>備考</b>			